

kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

▼木枯らしと巷の喧噪とともに年の瀬が迫り、本誌も第四一巻の最終号をお届けする時期になりました。この号でも、原著三篇、研究ノート一篇を含む多彩な内容を盛ることができたの喜びたいと思います。▼さて、ときとして本誌に掲載された内容についての発言を投稿したいという会員の方がありますので、ここでは編集委員会としての考え方を記してご理解を得たいと存じます。▼まず、現在の時点では、そういう内容のご投稿のために特別の欄を新設することはせず、適切な内容と判断できれば、前号の例でご覧のように、主として消息欄に掲載したいと考えております。その際委員会としましては、感情的な発言が含まれていないことと、できるだけ簡潔に述べられていることも重視したい所存です。▼なお、ご参考までに申しますと、例会抄録や書籍紹介の欄が現在約二千字を原則的な目安としておりますが、これを最長限度とお考え下さい。万一これよりも長くなりそうな場合には、むしろ雑誌内容に触発された独自の論考として、投稿規定を充分にご覧の上でご投稿(広場・研究ノートなど)頂きたいと考えております。また投稿の処理については、機微にわたる若干の事項も含めて、前号の編集後記に小曾戸洋委員が触れておりますので、併せてご参照頂ければ幸いです。▼最後に、現在のところ書籍紹介は投稿の形で募集しておりませんので、どうかご了承下さるようお願い致します。(三輪卓爾)

